

お釈迦さまは、今から約二五〇〇年前にお生まれになり、「生老病死」の苦しみから、二十九歳で出家し修行の後悟りを開かれました。その後、四十五年の長きにわたり、インドの地を、旅を続けながら多くの人々に教えを説き続けました。それは、対機説法と言われ、教えを聞く人の能力や素質にふさわしいように説き方を工夫されたのです。

その多くはお経として現代に伝えられていますが、そのほとんどはお釈迦さま亡きあと、仏弟子たちが教えを整理して今に伝えているものです。

そんな中、お釈迦さまの生の声を残しているお経がいくつかあります。『法句経』や『阿含経』などです。そこには、お釈迦さまも私たちと同じ人間だったのだと、親しみさえ感じる言葉が数多くあります。

そのようなお経の中で、二月十五日の涅槃会（お釈迦さまが亡くなられた日）に因み、『涅槃経』よりお釈迦さまの遺言を紹介いたします。もうこれ以上教え導くことのできない弟子たちへおくった、お釈迦さま最後の言葉です。

「諸々の事象は過ぎ去るものである。怠ることなく精進しなさい。」

このようにお釈迦さまは、言い残されました。

お釈迦さまも弟子たちも、そして私たちも、諸行無常の中で生きざるを得ないのです。だからこそ、修行を続けなければならないのです。

お釈迦さまの八〇年の生涯最後の言葉、はたして私たちに、勤まるのでしょうか？ 私たちが、お釈迦さまの教えを実践する場、それは、他でもない日々の生活の中にしかありません。生き方そのものが修行になるのです。お釈迦さまは、まさに私たちの生き方をお説きになっているのです。

二月十五日は、多くの寺院で涅槃会の法要が行われます。皆様もお釈迦さまの最後の言葉を思い出し、自らの生き方を問い直してみたいはいかがでしょうか。

「諸々の事象は過ぎ去るものである。怠ることなく精進しなさい。」